

## 1. 趣旨・概要

日米間の美術交流を軸として、海外における伝統と現代を含めた日本美術の展示、関心等に関する近年の動向について、美術対話委員会委員を中心とした日米それぞれの第一線で活躍する専門家が、自らの知識・経験を踏まえて分析し、公開の場で説明・議論することにより、専門家のみならず幅広い層に、現状や課題を共有することを目的としている。

## 2. プログラム

13:30～13:40 主催者挨拶 島谷 弘幸

13:40～15:10 第1部 《プレゼンテーション》

○島谷 弘幸

—今回のシンポジウムの意義

—海外における日本美術紹介—2000年以降の日本の取組

○アン・ニシムラ・モース

—カルコンADCの現状と今後の課題

—ボストン美術館を中心とした近年の米国における日本美術に関する動向

○林 道郎

—現代アートを中心とした近年の海外（米国）における日本のアートに対する関心の動向

○シャオジン・ウー

—シアトル美術館の収蔵品と現代アート展示について

15:30～17:00 第2部 《パネルディスカッション》

モデレーター：島谷 弘幸

パネリスト：日本側 伊東 正伸, 白原由起子, 林 道郎

米 側 ジョン・カーペンター, ロバート・ミンツ, シャオジン・ウー

オブザーバー：日本側 栗原 祐司

米 側 アン・ニシムラ・モース, マリサ・リンネ

※敬称略。出演者及びプログラムは予告なく変更になる場合があります。

### 【参考】カルコン美術対話委員会について

カルコン (CULCON) とは、日米文化教育交流会議 (The United States-Japan Conference on Cultural and Educational Interchange) の通称。1961年 (昭和36年) 6月、池田総理 (当時) とケネディ米国大統領 (当時) との間の共同声明により設立が合意され、1962年1月に東京で第1回合同会議を開催して以来、日米合同の会議を2年ごとに東京、ワシントンD.C. で交互に開催。日米両国間の有識者を一堂に集めて両国間の文化・教育交流に関する諸問題を討議することにより、文化・教育分野での交流の増進と相互理解の向上を図ることを目的としている。

美術対話委員会は (Arts Dialogue Committee: ADC) は、両国の民間及び公的機関の美術分野の専門家をメンバーとして、2011年にカルコンの下に設置され、日米間における古美術の分野から近現代美術の分野に至るまで、学芸員交流等による両国間の交流を強化することを目的として、これまで日米で交互に5回開催されている。

第6回は日本開催の順番であり、今回、福岡県の九州国立博物館において開催し、本シンポジウムは美術対話委員会の開催にあわせて実施するものである。